

室内の温湿度の
適正管理がなされ
ていますか？

空調の室内設定条件を見直し、温度・湿度を季節によって調整することにより、空調機の省エネを図ります。又、営業・操業の状態により、昼休みの空調機停止等効率的な運用を行うことで省エネを図ります。

近年は国が中心となり、ノーネクタイ・ノー上着等で快適に過ごすビジネススタイル、クールビズ・ウォームビズが推奨されています。

対策例

(変更前)



(変更後)



効果例

規模	延床面積	20,000㎡	10,000㎡	5,000㎡
	空調機容量	40HP×16台	40HP×8台	40HP×4台
削減電力量		73.3MWh/年	34.7MWh/年	17.4MWh/年
原油換算削減量		16.3kL/年	7.7kL/年	3.9kL/年
CO ₂ 排出削減量		28.5t-CO ₂ /年	13.5t-CO ₂ /年	6.8t-CO ₂ /年
削減金額		約1,050千円/年	約500千円/年	約240千円/年

[試算条件]

- ・夏季の冷房温度を26℃から28℃へ変更した場合
- ・冬季の暖房温度を22℃から20℃へ変更した場合
- ・建物種別：事務所
- ・空調熱源機：空冷ヒートポンプ
- ・空調期間及び時間：6月～9月(休日：2日/週)、9時～19時(冷房)
12月～3月、9時～19時(暖房)
- ・電力契約種別：業務用電力A(6kV)
- ・原油換算係数：0.233kL/MWh
- ・CO₂排出原単位：0.389t-CO₂/MWh(2021年度実績値(調整後排出係数))
- ・再エネ賦課金単価：1.40円/kWh(2023年度：税込み)
- ・削減金額(税込み)は、燃料費等調整額を含みません。

システム導入のポイント

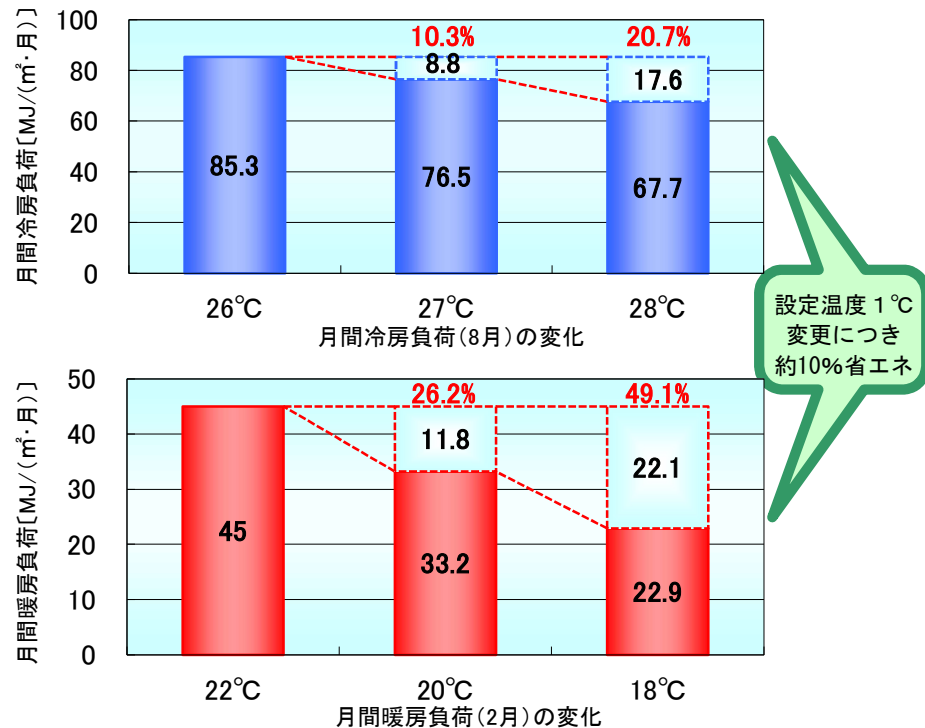
<なぜ冷房：28℃、暖房：20℃なのでしょう？>

冷房28℃という温度は快適な温度かという必ずしもそうとは言えませんが、未来の人類に対して化石燃料資源を出来るだけ残し、よい地球環境を維持するために、我々のライフスタイルを変更することで協力していきましょう。28℃は軽装するなどで何とか継続できる温度ではないでしょうか。

暖房20℃は第一次石油ショック時に政府の省エネルギー対策でうたって以来引き続き推奨している値です。

参考資料

設定温度と月間負荷の関係（事務所ビルの例）



出典：「省エネルギー手帳」省エネルギーセンター

建築物衛生法※の室内環境基準

項目	基準
温度	18～28℃
相対湿度	40～70%
気流速	0.5m/s 以下
CO含有率	6ppm以下
CO ₂ 含有率	1,000ppm以下
浮遊粉じん量	0.15mg/m ³ 以下
ホルムアルデヒド量	0.10mg/m ³ 以下

※正式には「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」（通称：ビル管理法）のことです。